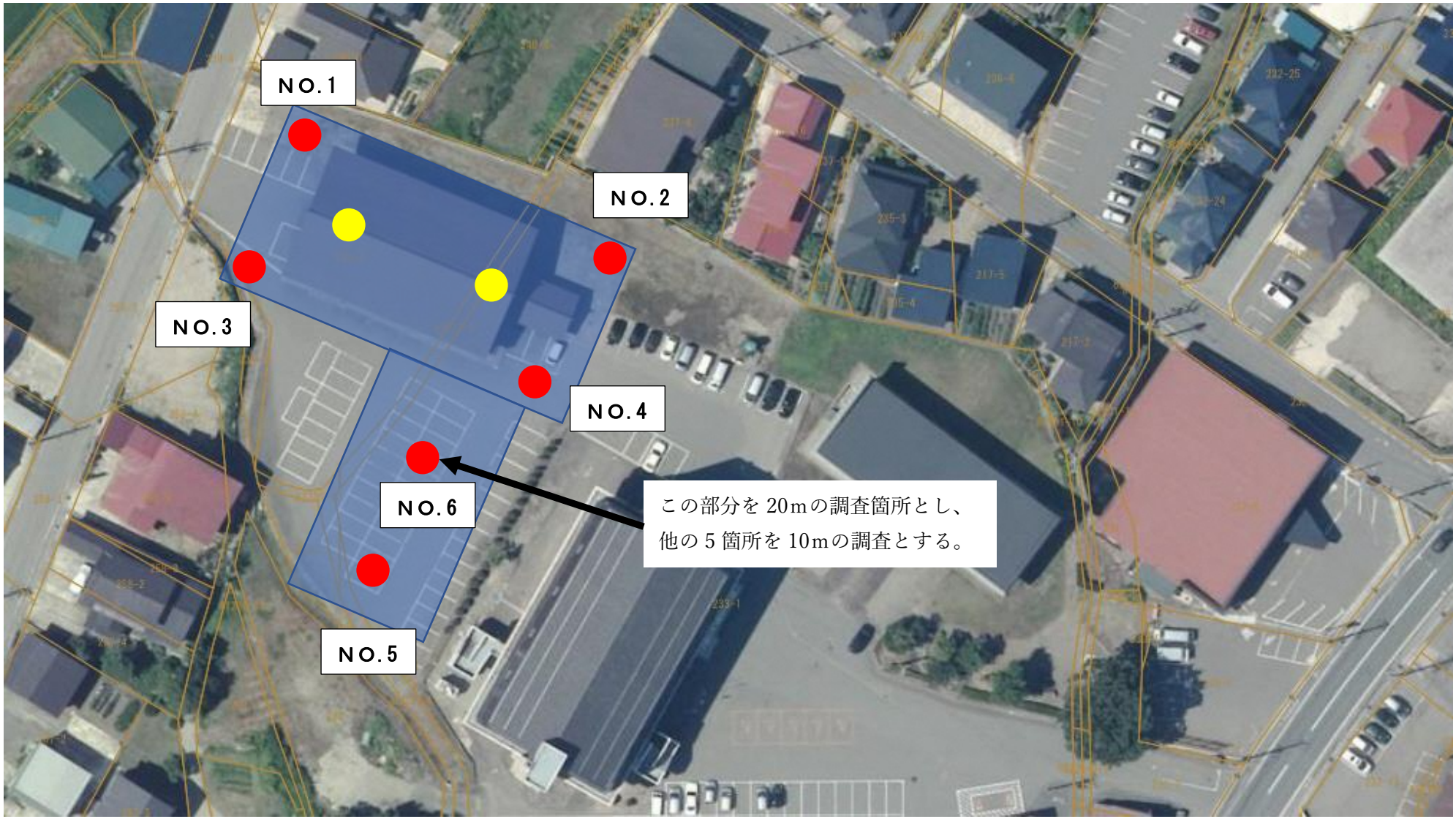
【真室川町地域交流センター　地質調査箇所図】



今回調査を想定する箇所

武道館建設時のボーリング箇所
（10m、過去データあり）

ボーリング柱状図

調　査　名	令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo										

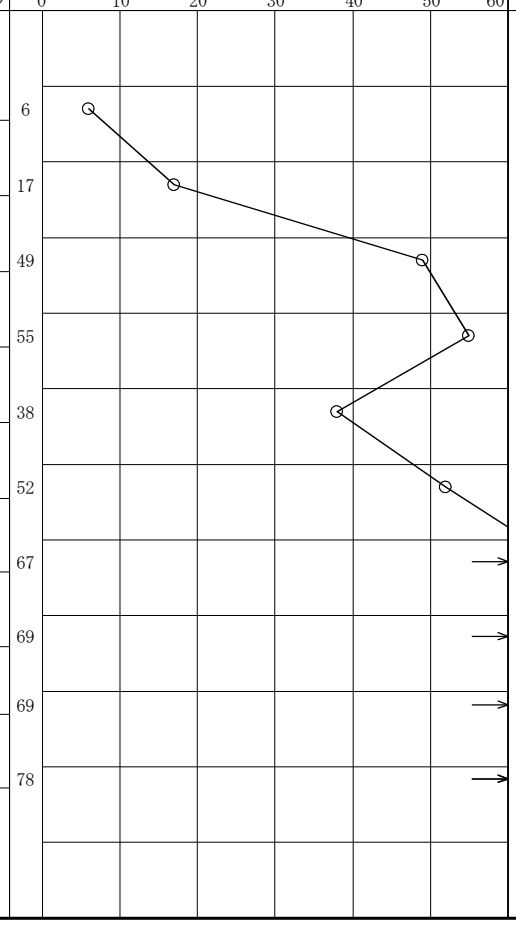
シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	最上群真室川町大字新町124-4							北緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課			調査期間	令和 7年 7月 10日 ～ 7年 7月 11日					東経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（0237-84-4355）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加	コア鑑定者	庄司　絵利加			ボーリング責任者	前田　克法
孔口標高	H=70.32m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機社製　D1型	ハンマー落下用具 半自動落下装置
総掘進長	10.28m								エンジン	ヤンマー社製　TF120型	ポンプ 東邦地下工機社製　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	69.72	0.60	0.60		盛土				GL-0.00～0.05m間アスファルト。 GL-0.05m以深、砕石。
1	68.82	0.90	1.50		砂質シルト	暗灰		中位の	含水少位、粘性弱。 全体に中砂～粗砂を混入する。 所々、φ30mm程度の亜円礫点在。 GL-1.40m以深、砂の混入多い。
2	67.82	1.00	2.50		砂礫	茶褐色	中位の		含水多い。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とする。 マトリックスは中砂～粗砂。 逸泥有り。
3					玉石混じり砂礫	茶灰	非常に密な		含水少位～中位で所々含水多い。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とする。 所々、短棒状の玉石が点在する。 マトリックスは粒子不均一な粗砂。 逸泥有り。
4									
5	65.02	2.80	5.30						
6					風化砂岩	黄褐色～淡青灰			粒子やや均一な細砂状を呈し、所々φ5mm程度の小礫を混入する。 全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。 岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。 GL-10m付近まで風化・変質を強く受け、黄褐色を呈す。 GL-10m付近以深、淡青灰色を呈し、比較的新鮮な状態である。
7									
8									
9									
10	60.04	4.98	10.28						
11									

孔内水位(m)／測定月日：7/11 2.63

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45 2.15	6	6	5	17／30	17
2.45 3.15	30	9	10	49／30	49
3.45 4.15	10	24	21	55／30	55
4.45 5.15	12	13	13	38／30	38
5.45 6.15	14	17	21	52／30	52
6.45 7.15	17	21	22／7	60／27	67
7.42 8.15	17	24	19／6	60／26	69
8.41 9.05	17	25	18／6	60／26	69
9.31 10.05	19	29	12／3	60／23	78
10.28					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						7/10
						7/11

ボーリング柱状図

調　査　名	令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo										

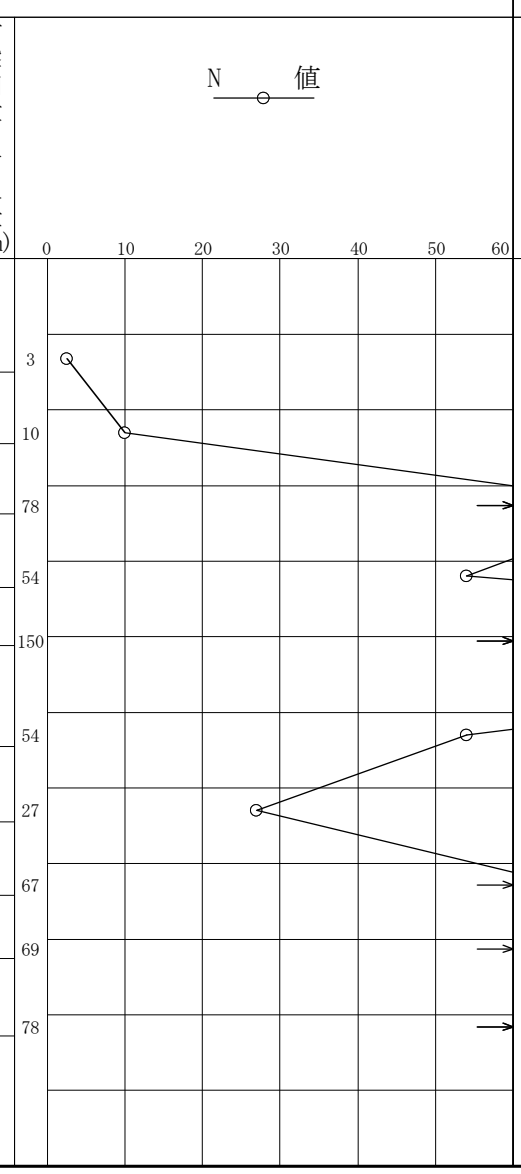
シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	最上群真室川町大字新町124-4							北緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課			調査期間	令和 7年 7月 16日 ～ 7年 7月 17日					東経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（0237-84-4355）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加	コア鑑定者	庄司　絵利加			ボーリング責任者	前田　克法
孔口標高	H=70.35m	角度	180°上 90° 下0°	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	試錐機	東邦地下工機社製　D1型	ハンマー落下用具：半自動落下装置
総掘進長	10.28m								エンジン	ヤンマー社製　TF120型	ポンプ：東邦地下工機社製　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	69.75	0.60	0.60		盛土				砕石主体。 GL-0.40m付近以深、礫混じり砂。
1 2	68.20	1.55	2.15		砂質シルト	暗灰		柔らかい	含水少位、粘性弱。 全体に中砂～粗砂を混入し、φ5～20mm程度の円礫を混入する。
	67.55	0.65	2.80		砂礫	茶褐色	中位の		含水中位。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とする。 マトリックスは粒子不均一な粗砂。
3 4 5 6 7	62.45	5.10	7.90		玉石混じり砂礫	茶灰～茶褐灰	中位の～非常に密な		含水中位。下部、含水多い。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とし、所々φ50～70mm程度の礫が点在する 最大コア長L=100mm（推定φ300mm）程度の玉石を混在する。 マトリックスは中砂～粗砂。
8 9 10 11	60.07	2.38	10.28		風化砂岩	黄褐色～淡青色			粒子やや均一な細砂状を呈し、所々φ5～10mm程度の小礫を混入する。 全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。 岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。 GL-10m付近まで風化・変質を強く受け、黄褐色を呈す。 GL-10m付近以深、淡青色を呈し、比較的新鮮な状態である。

孔内水位(m)／測定月日：7/17 3.56

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3	3
	15			35	
1.50	3	4	3	10	10
2.15				30	
2.45	19	29	12	60	78
3.15			3	23	
3.38	26	15	13	54	54
4.05				30	
4.35	44	16		60	150
5.00		2		12	
5.12	14	24	16	54	54
6.15				30	
6.45	11	9	7	27	27
7.15				30	
7.45	16	21	23	60	67
8.15			7	27	
8.42	18	25	17	60	69
9.00			6	26	
9.26	20	28	12	60	78
10.05			3	23	
10.28					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						7/16
						7/17

ボーリング柱状図

調　査　名	令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo										

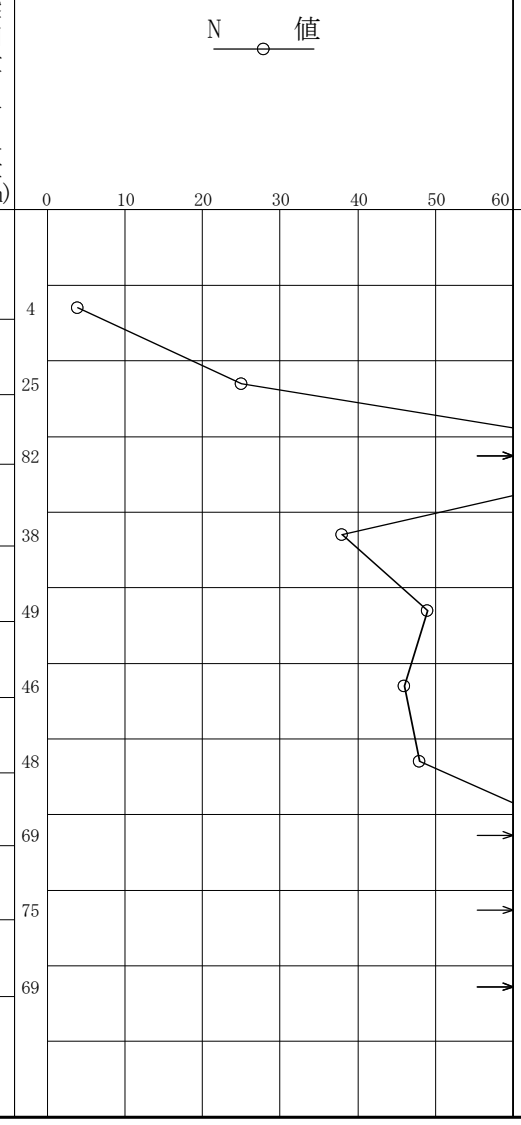
シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	最上群真室川町大字新町124-4							北緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課			調査期間	令和 7年 7月 8日 ～ 7年 7月 10日					東経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（0237-84-4355）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加	コア鑑定者	庄司　絵利加			ボーリング責任者	前田　克法
孔口標高	H=70.27m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機社製　D1型	ハンマー落下用具 半自動落下装置
総掘進長	10.41m								エンジン	ヤンマー社製　TF120型	ポンプ 東邦地下工機社製　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	69.77	0.50	0.50		盛土				GL-0.00～0.05m間アスファルト。 GL-0.05m以深、砕石およびシルト混じり砂。	
1	68.62	1.15	1.65		砂質シルト	暗灰		軟らかい	含水少位、粘性弱。 全体に細砂～粗砂を混入する。 所々、φ30mmの亜円礫点在。	
2 3 4	65.37	3.25	4.90		玉石混じり砂礫	茶褐色	中位の～非常に密な		含水少位～中位。GL-3m付近含水多い。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とし、所々φ50～70mmの礫を混入する。 最大コア長L=200mm（推定φ600mm）程度の玉石が点在する。 マトリックスは中砂～粗砂。	7/10 3.11
5 6 7 8 9 10	59.86	5.51	10.41		風化砂岩	黄褐色～淡青灰			粒子やや均一な細砂状を呈し、所々φ5～10mm程度の小礫を混入する。 全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。 岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。 GL-10m付近まで風化・変質を強く受け、黄褐色を呈す。 GL-10m付近以深、淡青灰色を呈し、比較的新鮮な状態である。	
11										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	1	1	4／30	4
1.45～2.15	9	8	8	25／30	25
2.45～3.15	22	30	8／2	60／22	82
3.37～4.15	13	12	13	38／30	38
4.45～5.15	13	17	19	49／30	49
5.45～6.15	13	15	18	46／30	46
6.45～7.15	14	16	18	48／30	48
7.45～8.15	19	23	18／6	60／26	69
8.41～9.15	21	26	13／4	60／24	75
9.39～10.15	16	24	20／6	60／26	69
10.41					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						7/8
						7/9
						7/10

ボーリング柱状図

調　査　名	令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託
事業・工事名	

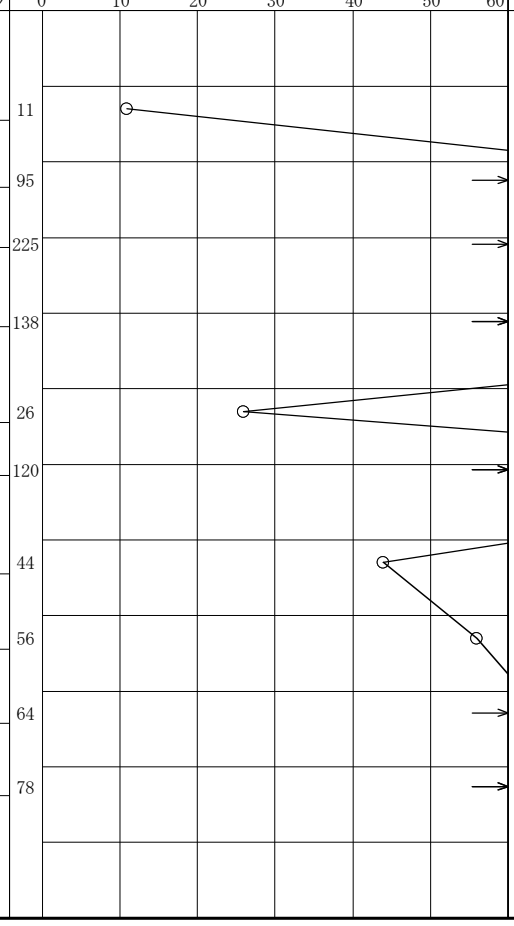
ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	No.4	調査位置	最上群真室川町大字新町124-4							北緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課			調査期間	令和 7年 7月 14日 ～ 7年 7月 15日					東経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（0237-84-4355）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加	コア鑑定者	庄司　絵利加			ボーリング責任者	前田　克法
孔口標高	H=70.19m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機社製　D1型	ハンマー落下用具 半自動落下装置
総掘進長	10.38m								エンジン	ヤンマー社製　TF120型	ポンプ 東邦地下工機社製　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	69.79	0.40	0.40		盛土				GL-0.00～0.05m間アスファルト。 GL-0.05m以深、砕石。	
1	68.84	0.95	1.35		礫混じりシルト	暗灰		中位の	含水少位、粘性弱。 全体に中砂～粗砂を混入し、φ5～30mm程度の円礫が点在する。	
2	67.94	0.90	2.25		砂礫	茶褐色	中位の		含水中位。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とする。 マトリックスは粒子不均一な粗砂。 GL-1.80m付近、シルトを薄く挟む。	
3					玉石混じり砂礫	茶灰	中位の～非常に密な		含水少位～中位。 φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とし、所々φ50～70mm程度の礫が点在する 最大コア長L=120mm（推定φ360mm）程度の玉石を混在する。 マトリックスは中砂～粗砂。 逸泥有り。	7/15 3.46
4										
5										
6	63.59	4.35	6.60							
7					風化砂岩	黄褐色～淡青灰			粒子やや均一な細砂状を呈し、所々φ5mm程度の小礫を混入する。 全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。 岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。 GL-10.25mまで風化・変質を強く受け、黄褐色を呈す。 GL-10.25m以深、淡青灰色を呈し、比較的新鮮な状態である。 他地点と比較して含水やや多い。	
8										
9										
10	59.81	3.78	10.38							
11										

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1.15	2	4	5	11／30	11							
1.45～2.15	7	53／9		60／19	95							
2.34～3.05	60／8			60／8	225							
3.13～4.05	42	18／3		60／13	138							
4.18～5.15	10	10	6	26／30	26							
5.45～6.00	30	30／5		60／15	120							
6.15～7.15	12	15	17	44／30	44							7／14
7.45～8.15	14	18	24	56／30	56							
8.45～9.15	15	20	25／8	60／28	64							
9.43～10.15	15	30	15／3	60／23	78							7／15
10.38												



ボーリング柱状図

調　査　名	令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	No.5	調査位置	最上群真室川町大字新町124-4							北緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課			調査期間	令和 7年 7月 3日 ～ 7年 7月 8日					東経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（0237-84-4355）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加	コア鑑定者	庄司　絵利加			ボーリング責任者	前田　克法
孔口標高	H=69.82m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機社製　D1型	ハンマー落下用具 半自動落下装置
総掘進長	10.45m								エンジン	ヤンマー社製　TF120型	ポンプ 東邦地下工機社製　BG-3B型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	69.32	0.50	0.50		盛土				GL-0.00～0.05m間アスファルト。 GL-0.05m以深、砕石およびシルト混じり砂。	
1	68.32	1.00	1.50		砂質シルト	暗灰		非常に軟らかい	含水少位、粘性弱。 全体に粒子不均一な細砂と植物片を混入する。 所々、φ5～10mmの亜円礫点在。	
2					玉石混じり砂礫	茶褐灰～茶灰	密な～非常に密な		含水少位～中位。 φ10～40mm程度の亜円～円礫を主体とし、所々φ50～80mmの礫を混入する。 最大コア長L=200mm（推定φ600mm）の玉石を混入する。 マトリックスは中砂～粗砂。	7/8 2.83
3										
4										
5										
6	63.12	5.20	6.70							
7					風化砂岩	黄褐色～淡青灰			粒子やや均一な細砂状を呈し、局部的に粗砂状を示す。 全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。 岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。 GL-9m付近まで風化・変質を強く受け、黄褐色を呈す。 GL-9m付近以深、淡青灰色を呈し、比較的新鮮な状態である。	
8										
9										
10	59.72	3.40	10.10							
	59.37	0.35	10.45		風化泥岩	暗褐			全体に風化し細砂状を呈す。 所々低固結状を呈すが、岩質は脆く、指先で砕ける程度である。 亜炭を薄く挟在する。	
11										

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1.15	1			1/30	1							7/3
1.45 2.15	10	20	18	48/30	48							
2.45 3.15	19	20	20	59/30	59							
3.45 4.15	14	17	21	52/30	52							
4.45 5.05	25	28	7/2	60/22	82							
5.27 6.05	37	23/4		60/14	129							
6.19 7.15	15	22	23/7	60/27	67							7/7
7.42 8.15	24	29	7/2	60/22	82							
8.37 9.05	25	32	3/1	60/21	86							
9.26 10.15	6	10	15	31/30	31							7/8
10.45												

ボーリング柱状図

調　査　名　令和7年度 真室川町地域交流センター建設事業 地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	Ｎｏ．６	調査位置	最上群真室川町大字新町１２４－４	北　緯	
発注機関	真室川町　教育委員会　教育課	調査期間	令和　７年　６月　３０日　～　７年　７月　２日	東　経	
調査業者名	株式会社　髙田地研 電話（０２３７－８４－４３５５）	主任技師	高橋　信一	現場代理人	庄司　絵利加
コア鑑定者	庄司　絵利加	ボーリング責任者	前田　克法		
孔口標高	H= 70.10m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	鉛直 90° 水平0°				
総掘進長	20.16m	使用機種 試錐機	東邦地下工機社製　Ｄ１型	ハンマー落下用具	半自動落下装置
		エンジン	ヤンマー社製　ＴＦ１２０型	ポンプ	東邦地下工機社製　ＢＧ－３Ｂ型

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
69.60	0.50	0.50	盛土				GL-0.00～0.05m間アスファルト。GL-0.05m以深、砕石およびシルト混じり砂。
67.95	1.65	2.15	砂質シルト	暗灰		軟らかい	含水少位、粘性弱。全体に粒子不均一な細砂と植物片を混入する。
63.25	4.70	6.85	砂礫	茶褐	中位の～非常に密な		含水中程度。φ5～40mm程度の亜円～円礫を主体とし、所々φ50～70mmの礫を混入する。マトリックスは中砂～粗砂。全般に逸水あり。
57.50	5.75	12.60	風化砂岩	黄褐色～淡青灰			粒子やや均一な細砂状を呈し、局部的に粗砂状および小礫の混入が見られる。全般に固結の程度は低く、低固結状を呈す。岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。GL-10m付近まで風化・変質を強く受け、非常に脆い状態である。GL-10m付近以深、淡青灰色を呈し、含水やや多い。
56.40	1.10	13.70	泥岩	暗褐～茶褐			短棒状～コア長L=80mm程度の棒状を示す。亜炭層を挟在する。
49.94	6.46	20.16	砂岩	淡青灰			比較的粒子均一な細砂状を呈す。全般に固結の程度は低く、低固結状の砂岩。岩質は脆く、指先で容易に砕ける程度の硬さである。全般に比較的新鮮な状態である。所々、短い棒状のコアが採取され、固結の程度は小程度を示す。

孔内水位(m)／測定月日: 7/1 7/2 3.08 3.17 3.36 (overlapping labels)

標準貫入試験

深度 (m)	0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15～1.50	1/15	1	1	3/35	3
2.15～2.45	9	11	7	27/30	27
3.15～3.45	10	11	12	33/30	33
4.15～4.45	20	19	10	49/30	49
5.05～5.35	15	18	20	53/30	53
6.15～6.45	7	12	16	35/30	35
7.15～7.45	12	16	20	48/30	48
8.15～8.43	16	21	23/8	60/28	64
9.15～9.41	19	25	16/6	60/26	69
10.15～10.41	16	26	18/6	60/26	69
11.05～11.28	23	27	10/3	60/23	78
12.05～12.29	20	28	12/4	60/24	75
13.00～13.12	45	15/2		60/12	150
14.15～14.38	20	27	13/3	60/23	78
15.15～15.38	21	28	11/3	60/23	78
16.05～16.21	33	27/6		60/16	113
17.00～17.20	27	33		60/20	90
18.00～18.22	23	29	8/2	60/22	82
19.00～19.20	27	33		60/20	90
20.00～20.16	37	23/6		60/16	113

掘進月日: 6/30（～6.85m）、7/1（～11.28m）、7/2（～20.16m）